

グローバルヘルスと人間の安全保障プログラム 第8回運営委員会における辻厚労副大臣挨拶

厚生労働副大臣の辻泰弘でございます。

まずは、本運営委員会の事務局でご尽力頂きました日本国際交流センター理事長の山本正様のご逝去につきまして深く哀悼の意を表したいと思っております。

さて、本日お集まりの皆様方におかれましては、日頃より国際保健の推進に対し、大いなるご貢献を頂いておりますこと、心より厚く感謝申し上げます。

本日の会合には、世界銀行から、タマール・アティンク副総裁ほかの方々に御出席を頂き、お話を伺うことができる大変貴重な機会に恵まれました。活発な意見交換がなされ、実り多い成果が得られることを期待致しております。

さて、まず、WHOに関して申し上げたいと思っております。

ご承知の通り、5月21日から26日に、スイス・ジュネーブにおきまして、WHO総会が開催されました。

あいにく国会等の事情により私自身が出席することは

適いませんでしたが、厚生労働省からは、代わりに阿曾沼事務次官が出席させて頂きました。

同会合におきましては、事務局長選挙の他、WHO改革、非感染性疾患対策などが議論され、日本から提案致しました高齢化対策に関する決議が採択されるなどの成果がございました。

詳細は後ほど厚生労働省の担当者から説明させて頂きたいと思っております。

厚生労働省と致しましては、今後とも、WHOでの議論に積極的に参加し、国際保健の課題にしっかり取り組んで行くとともに、WHOの取り組みの中で、国際的にも急速に進展している高齢化に対し、日本の経験や知見を活用して、どのような国際貢献ができるかを検討していきたいと考えております。

次に、世界銀行との連携について申し上げたいと思っております。

本日の議題とされております日本と世界銀行との共同

研究につきましては、厚生労働省と致しましても、日本の国民皆保険に関する知見を共有するなど、共同研究に積極的にご協力させて頂きたいと考えております。

また、10月には、IMF・世銀年次総会が、48年ぶりに日本で開催されることとなっておりますが、その際には、国際保健に関するセミナーも開催される予定と伺っております。

本日も、総会の準備状況の報告がなされるようですが、厚生労働省と致しましても、内容面で積極的な支援を行って参りたいと考えております。

最後に、本会合にご参加されました皆様方と、準備に当たられました関係者の皆様方に対し、心よりの敬意と感謝の念を申し上げ、厚生労働省の立場からのご挨拶とさせて頂きます。